

学校だより



みなみたなか

平成26年1月8日
練馬区立南田中小学校
校長 榎谷 雅弘

当たり前のことが当たり前にできる学校をさらに目指します

校長 榎谷 雅弘

新年明けましておめでとうございます。昨年本校へのご支援に厚く御礼申し上げます。本年もご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

昨年12月19日に東京都教育委員会言語能力向上推進校3年目のまとめの研究報告会を行い、これまでの研究が一段落しました。お陰様で、次のような多くの成果を上げることができました。

- 1) 「自分の思いや考えをもつ」ための手だてとして、読みの観点を示し、教材に応じた読み方を指導したことで、自分の思いや考えをもたせることができました。また、根拠となる叙述を引用して説明する方法を身に付けさせることができました。
- 2) 「表現する」ための手だてとして、教師がモデルを示したことで、表現することに難しさを感じる児童も目標に見合った表現力を身に付けさせることができるようになりました。話形だけでなく、友達の意見に対する反応の仕方を指導しました。これにより、交流活動の中で対話が成立し、考えを広げたり深めたりする姿が多く見られました。
- 3) 児童の読書量が大幅に増え、図書の貸出冊数が5年前に比べ5倍となりました。
- 4) 大幅に学力が向上しました。
- 5) 教師の授業力が向上し、児童がじっくりと考え意見を交流する姿が見られるようになり、国語の授業を楽しむにしている児童が増えました。
- 6) 本校の教育活動が評価され、平成25年度 子どもの読書活動優秀実践校「文部科学大臣賞」を受賞することができました。

以上のこれまで積み上げてきた研究の成果を生かし、区立南田中図書館と連携した教育活動を今後も推進してまいります。

12月20日には、全校児童を対象に体罰や行き過ぎた指導に関するアンケート調査を行いました。「呼び捨てにしないで欲しい。」などの児童からの訴えなども聞き取りました。それらについては、全教職員でしっかりと児童の気持ちを受け止め指導に当たって参ります。

新しい年の始めに当たり、児童の健やかな成長を目指し、全教職員心を一つにして「当たり前のことが、当たり前にできる学校」を目指し最善を尽くすことをお誓いいたします。

今年も4年生がシューズバンクプロジェクトに取り組みます

「シューズバンクプロジェクト」とは、今から10年ほど前にロータリークラブの方が始めた社会貢献プロジェクトです。

日本の小学校や病院、音楽教室等々子供たちや企業が協力して集めた靴をだいたい1回に1000足前後フィリピンの学校に届けています。

南田中小学校では、4年生が総合の学習の時間にこの活動に取り組み、フィリピンの国や子供たちの様子を調べ、なぜ、靴を贈る必要があるのかを全校児童に紹介をし、靴を集めてきました。

1月から3月にかけての寒い朝、登校時に、4年生の子供たちが中心になってまだ履ける靴や家に眠っていた新古品などを自主的に集めています。その集めた靴をロータリークラブの皆さんがフィリピンの学校に届けてくださるのです。

昨年度の4年生への感謝状 フィリピンは、人口の三分の一が一日1ドル以下で暮らしている国だそうで、靴は大変高価なものだそうです。特にマニラから2～3時間車で走ればそこは別世界で、靴を履いている子供はほとんど見かけないそうです。靴がないから学校に通うのが嫌だという子もいるそうです。

『このプロジェクトには日本の子供たちとフィリピンの子供たちが登場します。靴を送る側と靴を貰う側が、いつまでも一方通行では国も子供たちも成長しません。

フィリピンの子供たちには自ら社会貢献できる人間に成長して欲しいし、日本の子供たちには、この貢献活動を通して立派な人間に成長して欲しい。』と、プロジェクトを通して互いに成長して欲しいとの願いをロータリークラブの氏家茂美様から伺っています。

シューズバンクプロジェクトやユニセフ募金を通して、いかに自分たち日本の子供たちが恵まれているかを知ると共に、世界には、食べることに毎日汲々としている子供が大勢いる中で、自分のために時間を自由に使おうことが出来るのが、いかに幸せなことかを噛みしめて欲しいと強く願っています。そして、自分の志を高く掲げ、そのために最善を尽くして欲しいと思います。皆様には、今年もお宅にある靴を提供して頂けますようご協力よろしくお願いいたします。

